

2017年6月

No.471

 とやまわん
富山湾にやってくるカマイルカ

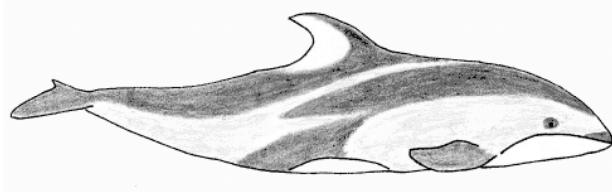
富山湾にイルカがやってくるのを知っていますか？ カマイルカ、ハンドウイルカ、ハナゴンドウ、イシイルカなどがやってきて、最もよく見られるのがカマイルカです。能登島（石川県七尾市）には2001年頃からミナミハンドウイルカがすみつき、年中見られます。

カマイルカは体長が最大で2.5mほどの小型のイルカです。北太平洋の中国大陸沿岸から北アメリカ沿岸まで、東西の広い範囲で帯状に分布し、日本周辺では、日本海やオホーツク海、太平洋側（和歌山県熊野灘より北）で見られます。餌は魚やイカなどです。

日本海では冬から夏にかけて、日本海沿岸を九州から北海道に北上し、間宮海峡からオホーツク海へ抜けるものと、津軽海峡から太平洋側へぬけるものがあります。富山湾には北上の途中に立ち寄り、県東部の沿岸で隊列をなして新潟方面に移動するカマイルカの群が目撃されたこともあります。

富山湾には1月頃から6月頃までやってきて、4～5月頃によく見られるようになり、釣り人がブログやユーチューブで紹介することもあります。しばらく湾内にとどまり餌を食べているようです。魚を追いかけている姿が目撃されることもあります。

泳ぎが早いため全身はなかなか見られませんが、海面から出ている背ビレは比較的に見やすく、その形は草を刈るときの鎌に似て、しかも後ろ側が白く鎌の刃のように見えることが、名前の由来になっています。



上 富山湾沿岸にやってきたカマイルカ(2017年3月)

下 カマイルカの全身

背中側が黒っぽく、その下側が白っぽいいためコントラストが鮮やかです。クチバシと頭の前の部分との境がほぼ平らで、頭の頂上あたり（目の上あたり）に噴気孔（鼻孔）が1個あります（潜るときはとじています）。イルカは私たちと同じほ乳類で、肺で呼吸をするため、潜っては海面に浮上し鼻で息をします。

海上の蜃気楼を見ていると泳いでいるイルカを見かけるかもしれませんが、そのときは背ビレに注目してみてください。（南部久男）